

〈生き物の痕跡〉

朝目が覚めてカーテンを思いっきり開ける。目の前に一面の銀世界が飛び込み、雪の細かい結晶が朝日に照らされてキラキラ輝いている、はずだった！何のことはない昨日と同じ埃っぽい世界がどんよりと現れただけ。昨日の天気予報では「関東地方の平野部でも積雪があるでしょう」とあんなに言っていたのに、雨すら降らない。いや、雪を期待していたわけではなく、12月からずっと雨らしい雨が降っていないなかったのでとにかく水分が欲しいのだ。畑は土ぼこりが舞い、すでにタマネギは茶色く枯れ始めてきている。

ぼやいても仕方ないので、今日はカメラ片手に「生き物の痕跡探し」を試してみた。手袋をした手を更にポケットに突っ込みとにかくあちこち歩き回る。こんな寒い日で生き物そのものは見つからなくても何時間前、何か月前は確かにそこにいた“証”がいくつも見つかった。きっと一つ一つの命がその時その時を懸命に生きていたに違いない。抜け殻も食痕も巣穴も卵も、みんなみんな命の履歴。時が経ち、少しずつ風化はしてもその時に確実に生きていたという“動かぬ証拠”が次々に上書きされて命が繋がっていく。そんな上書きされた“痕跡”はこの先ずっと見られるのだろうか？9日放映されたNスペ、「2030・未来への分岐点①暴走する地球温暖化」が頭をよぎる。



